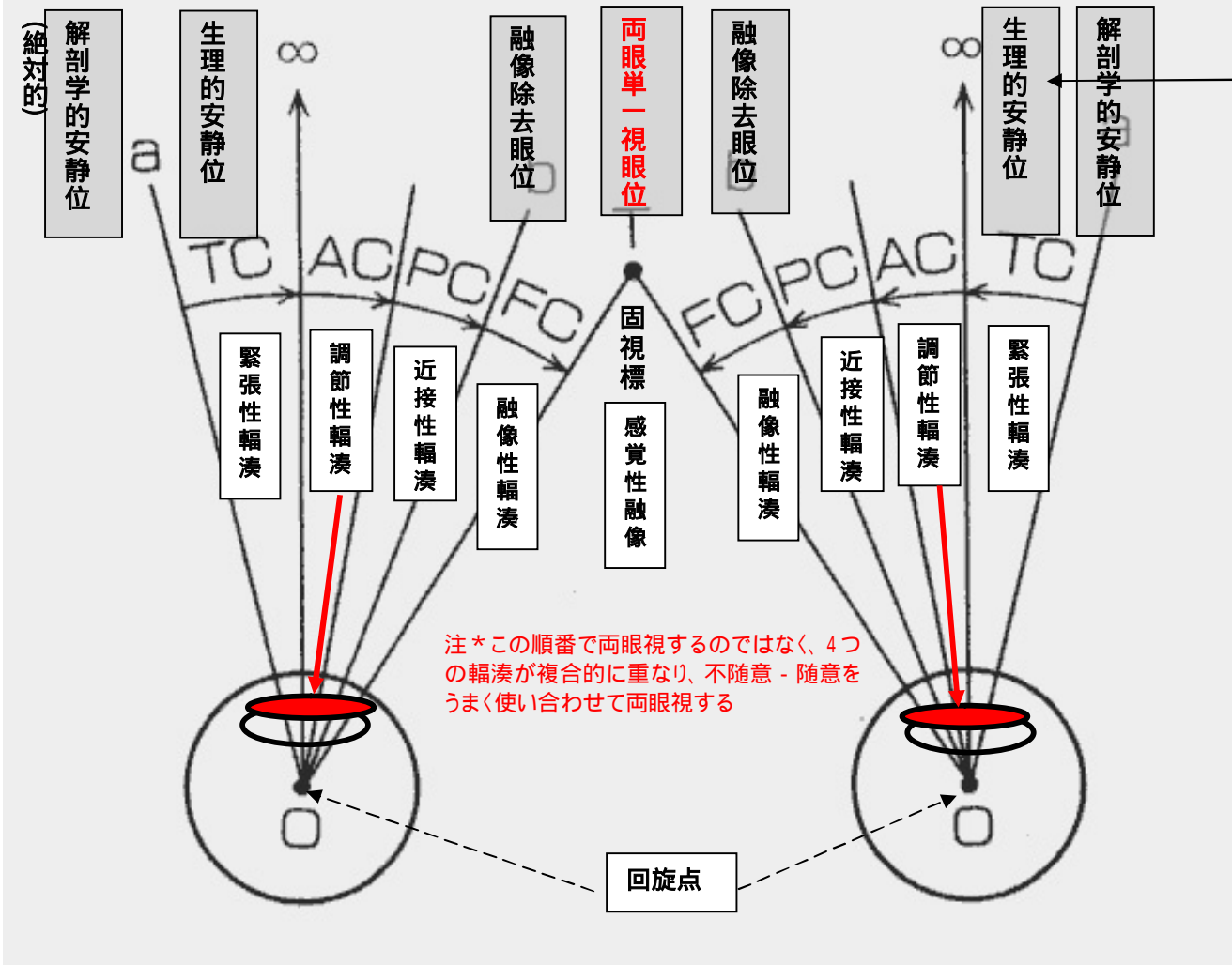


正常者が左右眼を目標に向けるまでの眼位(日常の両眼視眼位)と輻湊の種類

図)視能矯正学改訂第2版 P178 に加筆



緊張性輻湊の間にある

注\*この順番で両眼視するのではなく、4つの輻湊が複合的に重なり、不随意 - 随意をうまく使い合わせて両眼視する

**解剖学(絶対)的安静位** 死後、昏睡、深い麻酔時の眼位。

**緊張性輻湊** 両眼が遠方の1点を単一視するまでの輻湊。覚醒時に常に存在し睡眠時にはない。外眼筋の緊張(生理的トーンスのこと)

**生理的安静位** 外眼筋の緊張(生理的トーンスのこと)が働いている眼位。  
(視能学 p184 では麻酔・深い睡眠中となっているが、p168 の方とする)

**調節性輻湊** 調節に伴う輻湊。目標距離にピントをあわそうとしておこる。輻湊と調節(縮瞳)はセットになっているが、AC には多少の過不足がある。その値を示すものとして、AC/A 比(単位調節量に対する調節性輻湊量)がある。

**近接性輻湊** 物体が近くにあるという感覚によっておこる。(はっきりわかっていない)

**融像除去眼位** 安静位から緊張性輻湊と融像性輻湊が加わって通常の眼位となるが1眼を遮閉して FC が起こらないようにした時の眼位。

**融像性輻湊** 両眼が単一視する為の輻湊。調節性輻湊の過不足を補うもの。**運動性融像**ともいう。

参) **感觉性融像** 補えない僅かな誤差を脳で1つにするもの。

近接性輻湊と調節性輻湊は近見の場合なので除外されている。

過剰だと EP となる。

両眼を動かさないで両眼単一視する現象。